

O

r

r

d

vol.  
699

The  
Record

2018 february

2

R

e

e

C

T

h

e

| 座談会 変わりゆく洋楽マーケット  
| 平成 29 年度 (第 72 回) 文化庁芸術祭賞決定



# Monthly News Digest

## Contents

Monthly News Digest .....	1
特集	
座談会 変わりゆく音楽マーケット .....	3
特報	
平成 29 年度 (第 72 回)	
文化庁芸術祭賞決定 .....	8
文化庁実証事業	
「音楽権利情報検索ナビ」開設 .....	9
2017 年ミリオン認定作品 .....	10
私の一枚 season2 .....	11
Data File .....	12
Monthly Production Report .....	13
GOLD DISC .....	14

## 12/7 RIAJセミナー開催

12月7日、東京都港区の共同通信会館会議室において、第78回 RIAJ セミナーが開催された。

今回は、明治大学情報コミュニケーション学部准教授 今村哲也氏を講師に招き、「拡大集中許諾制度の導入の是非」をテーマに講演が行われた。拡大集中許諾制度とは、相当数の著作権者を代表する集中管理団体と著作物の利用者との間で締結された利用許諾契約と同じ利用条件で、集中管理団体の構成員ではない著作権者の著作物の利用を法律で認める制度である。既に北欧諸国で50年以上の実績を有するほか、近年はイギリスでも導入が図られ、日本でも著作物の利用円滑化の観点から文化庁・著作権分科会で調査研究が進められている。本セミナーでは、冒頭、諸外国の制度概要や管理状況が紹介され、続いて、拡大集中許諾制度の強みと課題について説明が行われた。

当日は、当協会会員社の法務担当者を中心に約50名が出席し、実施後のアンケートでは、「日本で権利制限と整理されている利用方法についても、拡大集中許諾によってライセンスしている国もあることに驚いた」などの声が寄せられ、今回のテーマへの関心の高さがうかがえた。



## 1/5 2018年新年賀詞交歓会開催

1月5日、当協会は東京都千代田区のホテルニューオータニ「芙蓉の間」において、恒例の新年賀詞交歓会を開催した。

当日は、当協会重村会長のあいさつに始まり、来賓を代表して林芳正 文部科学大臣より祝辞をいただいた後、羽入佐和子 国立国会図書館長、住田孝之 内閣官房知的財産戦略推進事務局長ならびに音楽関係団体代表者らによる鏡開きが行われ、甘利明 自由民主党音楽文化振興議員懇談会会長より乾杯のご発声をいただき、賀詞交歓と歓談に移った。

年初早々多忙の中、国会議員の先生方をはじめ、関係官庁、関係団体、マスコミ、販売流通業界、その他関係各方面から約1,000名に会場いただき、新年の挨拶を交わし合う晴れやかな会となった。なお、当日ご出席いただいた国会議員の方々には以下のとおり（敬称略・50音順）。

秋元 司（自民・衆）、甘利 明（自民・衆）、市田 忠義（共産・参）、大塚 拓（自民・衆）、海江田 万里（立憲・衆）、柿沢 未途（希望・衆）、斉藤 鉄夫（公明・衆）、櫻田 義孝（自民・衆）、佐々木 さやか（公明・参）、左藤 章（自民・衆）、山東 昭子（自民・参）、高木 美智代（公明・衆）、富田 茂之（公明・衆）、畑野 君枝（共産・衆）、林 芳正（自民・参）、山口 那津男（公明・参）



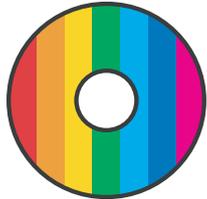
このエルマークは、レコード会社・映像製作会社が提供するコンテンツを示す一般社団法人日本レコード協会の登録商標です

## 「第10回CDショップ大賞2018」2次ノミネート作品発表!

CDショップ大賞実行委員会は、「第10回CDショップ大賞2018」2次ノミネート作品を発表した。

CDショップ店員の目利き・耳利きによって真に売りたい!聴かせたい作品を選出する同賞。このたび、2017年1月1日~12月31日までに発売された邦楽のオリジナルアルバム(ベスト盤を除く)を対象とする2次ノミネート13作品が選出された。

全国CDショップ店員が選んだ  
行かなきゃ会えない音がある!



### 第10回CDショップ大賞2018

#### 2次ノミネート13作品(アーティスト名50音順)

アーティスト名	作品名	品番	発売日
GLIM SPANKY	BIZARRE CARNIVAL	TYCT-60107	2017/9/13
櫻坂46	真っ白なものは汚したくなる	SRCL-9488	2017/7/19
スカート	20/20	PCCA-04583	2017/10/18
台風クラブ	初期の台風クラブ	LNCM-1211	2017/8/23
DAOKO	THANK YOU BLUE	TFCC-86625	2017/12/20
CHAI	PINK	CHAI004	2017/10/25
10-FEET	Fin	UPCH-20462	2017/11/1
never young beach	A GOOD TIME	VIOL-64814	2017/7/19
Hi-STANDARD	THE GIFT	PZCA81	2017/10/4
PUNPEE	MODERN TIMES	XQMV1009	2017/10/4
BiSH	THE GUERRILLA BiSH	AVCD93754	2017/11/29
My Hair is Bad	mothers	UPCH-20464	2017/11/22
米津玄師	BOOTLEG	SRCL-9571	2017/11/1

大賞受賞作品は1次および2次ノミネート全24作品の中から最終選考投票によって決定。大賞をはじめ、各賞の発表と授賞式を、3月に予定している。

詳細は全日本CDショップ店員組合サイト (<http://www.cdshop-kumiai.jp/>) を参照。

## ●●●会員社のお知らせ●●●

### ■ 移転 (1/22 付)

社名: 株式会社ソニー・ミュージック  
ダイレクト (賛助会員)  
新住所: 〒107-6214 東京都港区赤坂  
9-7-1 ミッドタウン・タワー  
新電話番号: 03-5786-8121 (代)

社名: 株式会社ソニー・ミュージック  
マーケティング (賛助会員)  
新住所: 〒107-6214 東京都港区赤坂  
9-7-1 ミッドタウン・タワー  
新電話番号: 03-5786-8131 (代)

## Coming Next Artists 情報

音楽ナタリー内では、新たに以下の特集記事、コラムが公開中です。是非ご覧ください。

#18 **DROP DOLL**  
(徳間ジャパンコミュニケーションズ)  
パーソナリティ / Tom-H@ck

#19 **ヤバイTシャツ屋さん**  
(ユニバーサルミュージック)  
パーソナリティ / 菅野結以

#20 **ましろみ** (ポニーキャニオン)  
パーソナリティ / Tom-H@ck

コラム #5 さユりが語る、音楽を持ち運べる喜び

Coming Next Artists (音楽ナタリー内)  
<https://natalie.mu/music/pp/comingnextartists>



# 座談 変わりゆく洋楽マーケット

会 鼎談

当協会集計のレコード生産実績を参照すると、フィジカル形態において、1960年代半ばまでは邦楽よりも大きなシェアを有していた洋楽だが、徐々にその比率は小さくなり、2016年は全体の9割以上を邦楽が占める結果となるなど、一般的には不振と見られている洋楽市場。一方でダウンロードやサブスクリプションサービスなど、配信ビジネスでの洋楽マーケットは活況を呈し、まさに大きな成長の途上にある。

本特集では、マーケットの現況と今後の可能性、音楽の聴かれ方が多様化する中での市場アプローチのキーポイントなどについて、海外3大メジャーの洋楽部門長の皆さんに語り合っていた。



中武 宣廣 氏

株式会社ソニー・ミュージックレーベルズ  
ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル  
代表

井口 昌弥 氏

ユニバーサル ミュージック合同会社  
ユニバーサル インターナショナル  
マネージング・ディレクター

住井 敬太郎 氏

株式会社ワーナーミュージック・ジャパン 執行役員  
ワーナー・インターナショナル 兼  
フロントライン本部 本部長

## 洋楽マーケットの今

「洋楽は、市場がシュリンクしていると言われる一方で、サブスクリプションサービスではよく聴かれている」といったデータもありますが、実際はどうなのか。まずは現場で取り組まれている皆様から、市場の現況をお聞かせください。

**住井** 確かに「音楽業界は厳しい、特に洋楽は大変ですね」という声は届きますが、実際にマーケットに臨む者としてみると、実はこの3年ほど順調に売り上げが伸びているんです。ストリーミングが押し上げている感があり、ここしばらくなかったような右肩上がりですので、

どうしても一般的な市場の見られ方とのギャップを感じます。これは当社だけではなく、中武さん、井口さんのところもそうだと思うのですが。

**井口** 同感です。やはり社内も含めて一般の認識とギャップがあると思います。洋楽チームを担当して3年になりますが、2014年から売上・利益ともに音楽業界でこれだけの伸び率は最近では珍しいことだと思われるくらい成長しています。洋楽市場の構造が変わるなか、チャートや指標が追いついていない状況があり、市場の伸びが表に現れないのが困っているところです。

**中武** 私の管掌するところでは、ストラテジック・カタログの数字もすべて入ってきますが、フィジカルの比重が大きく、トータルではやや微減に落ち着きますね。フィジカルの視点から「洋楽は大変ですね」と言われますが、やはりストリーミングの伸びは目覚ましく、海外アーティストのライブ本数やブックイング比率、観客動員を見ても、音楽の聴かれる度合い

という点において、決して洋楽の存在感が薄れているわけではないと思います。洋楽の成長性は注目に値するはずですが、ストリーミングの実態が目に見えるものとして表に出てこないのが客観的には難しい。あと無料で音楽を聴ける場がネット環境にありますが、そこをマネタイズ化できていないことの影響も否めません。

## ストリーミングのシングルヒットからアルバム CD 購入へ

一好調な市場の様子を、分かりやすくお話しいただきました。デジタルが牽引しての好調という印象ですが、フィジカルのテコ入れにつながる要素はあるのでしょうか。

**住井** 一概には言えませんが、フィジカルの落ち込みはあまり感じていないんです。カタログは落ちていますが、新譜系も各作品では落ちているものももちろんありますが、全体としてはそうでもない。ストリーミング、ダウンロードでちゃんとシングルヒットが出れば、アルバム CD の購入にもつながると見えます。ストリーミングにはアルバムの概念がないので、フィジカルのアルバムとも共存できる。

一方で、60年代～80年代のフィジカルのカタログの落ち込みを、ストリーミングが挽回しきれていない現状もあります。

**井口** 当社はフィジカルも多少伸びていますが、去年はラ・ラ・ランドのように強力な新譜 CD が売れたので、その押し上げ効果もありました。フィジカルもジャンルによると思っていて、ストリーミング系とフィジカル系でアーティストもセグメント化されてきているように感じます。そういう状況で、フロントラインのアーティストの CD アルバムを売るためには、1曲のヒットだと売れないと如実に感じています。最低でも二

つ、理想的には三つのヒット曲がないとアルバムにつながらない。

**中武** 例えば、ジャンルでくるなど一つのテーマに企画を絞り、この3社でキャンペーンをまとめて、ショップと連携するといった施策は過去にやってきました。カタログ商品は既に価格競争をし尽くされていますので、これからは、ターゲットを決めてボックスセットやアナログなどの高付加価値商品として売り出す取り組みになってくると思います。

フロントラインは、お二人がおっしゃったように、シングルヒットを作ってクロスオーバーしていかないと本当に難しい。基本的に洋楽は、楽曲ベースで聴かれる方向に完全シフトしているので…。ただ最近意外だった出来事は、当社のザ・チェインスマーカーズに複数の楽曲ヒットが出て、先日数字をまとめてみたところ、トータルセールスの5割がフィジカルだったこと。驚きました。シングルヒットがクロスオーバーした効果を実感しました。

あと海外は、日本とは市場が大きく異なることもあり、フィジカル発売を前提にしないので、前触れもなくいきなりアルバムを出してくる。日本での展開に苦労します。



「ラ・ラ・ランド (オリジナル・サウンドトラック)」  
Various Artists

商品番号：UICS-1322  
発売日：2017/2/17  
発売会社：ユニバーサル ミュージック合同会社



「メモリーズ...  
ドゥー・ノット・オープン」  
ザ・チェインスマーカーズ

商品番号：SICP-5383  
発売日：2017/4/7  
発売会社：株式会社ソニー・ミュージックレーベルズ (ソニー・ミュージックジャパン インターナショナル)

**井口** そうですね。フィジカルの生産をタイムラインに乗せる時間が限られてしまう。

**中武** フィジカルを購入してくださるお客様に、どんなプラスチックファを届けられるかが問われますね。何とか頑張って歌詞対訳とライナーを入れて、あとはプレイパスコード<sup>(注)</sup>をつけるとか。日々厳しい状況です。

(注) プレイパスコード…(株)レコチョクが提供するサービス「プレイパス®」にて使用するコード。対象商品となるCD、DVD、Blu-rayに封入されるカードに記載されており、専用のWebサイトで入力することで、スマートフォンで楽曲を利用できる。  
<http://playpass.jp/>

**住井** 邦楽もそうですが、ライフスタイルの違いは消費行動に現れます。CDを一切聴かない世代、人たちに「CDを買ってください」と言っても購入してもらえ

ません。知らないアーティストのCDを、いい新人なので買ってくださいと言っても無理がある。今はCDを買ってもらうにはファンになってもらわないと難しい。CDが、ファンのグッズ的な位置付けになってきましたね。



ーレコード協会で実施しているユーザー調査でも、消費者の購入に対する意識が変化するなかで、近年は楽曲が好きだけではなかなかCDを買ってもらえないという傾向が強まるようになり、アーティスト自身を好きになってもらうためのプロモーションも必要との結論が導かれました。

## ユーザーの変化とは

ー 10年、20年前なら「洋楽ファンです」という人も普通に多かったと思います。でも今は、例えば「嵐が好き。洋楽は知らないけれど、テイラー・スウィフトは好き」というように“洋楽”と意識せずに聴いているユーザーが増えているように思います。そのあたりのユーザーの変化はどう感じていますか。

**井口** 当社では昨年、「“憧れビジネス”からの脱却・変革」をテーマにしました。洋楽もそうですが、映画など海外コンテンツ市場はかつて、欧米に対する無条件の憧れがあって成立していたように思います。「全美1位」など分かりやすいアピールポイントが効力を持ってましたが、最近は視聴者が感動したポイントを前面に押し出すようになりました。海外でのニューストピックが大きな関心事ではなくなり、そこをベースにした形のビジネス手法が難しくなったのは事実です。

オースティン・マホーンは分かりやす



い例で、入り口は芸人さんが使ってくれたラッキーパンチ。でもそれを効果的に伸ばすために、日本式の露出に組み込む部分で工夫を図りました。「海外への憧れ」を何で埋めるかは常に考えさせられることであり、これからも大きな課題です。

**中武** 井口さんがおっしゃるように、憧れビジネス、憧れカルチャーで洋楽を高いところに置いて“すごいでしょう”と言って興味を持ってもらう、聴いてもらうという



スタイルではもう通用しませんね。今のユーザーは身近な世の中のことに影響を受け、周りの友だち同士とSNSなどを通じて個々にアクティブな世界を築いている。3社一緒だと思いますが、洋楽の曲でも、国内アーティストやインフルエンサーを通して紹介してもらうなど、ユーザー周辺にきっかけを求めないとヒットにつなげるのは難しい。

**住井** 憧れ自体、もはやないに等しいと思います。その上、以前あった日本だけでの独自ヒットも、かなり生まれにくくなりました。20年ほど前は日本だけで売れる、流行る曲が年何曲もありました。今はどんなにいい曲で、日本に合っていると思っても、なかなか広まらない。元来日本人は自分から探しに行くより、誰かから紹介を受けて消費行動に移る傾向があります。かつてはそのきっかけが、「全米1位」のような売り文句だった。今の悩みは、それに代わる爆発的なものがないこと。とにかくフックになりそうなことは、何でも試します。

**井口** 海外レーベルでは数撃たば当たるという発想で、少しでも反応があれば、そこから掘り進めていきます。今は完全に、お客さんが気になった作品やアーティストを選ぶ時代になっていて、火の付く兆候をいかに早く捕まえられるかがとても重要。仕掛け方も変わりました。

**中武** そうですね。僕らは、プライオリティ・アーティストを決め、タイムラインを引き、その順序を追いつけるスタイルで長らくやっていたのですが、当社の若手デジタルマーケティング担当と話してみると、今はそのPDCAの回し方では追いつけないと言うんです。世の中で起きていることに先手を打ち、素早く対処することが求められる。

**井口** 卑下するわけじゃありませんが、自分たち主導で流れを作れると思って、実際は違いますから。

**住井** 兆候を察して素早く行動するのは最善手ですが、同時に「これはやりきるぞ」ということもなくしてはいけないと常日頃思っています。特にスーパースターを育てる取り組みは欠かせません。当社で言えばエド・シーランですね。



「÷ (ディバイド)」  
エド・シーラン

商品番号：WPCR-17707

発売日：2017/3/3

発売会社：株式会社ワーナー  
ミュージック・ジャパン

**中武** いずれにしても積極的に、自ら考えて行動する姿勢が重要だと思います。

**井口** ヒットの要因が必ずしも、僕らがやっている仕掛けが奏功したわけじゃなく、実態とズれる場合もある。特にストリーミングは勝手に転がる要素もあり、そこがいい面でもあるけれど、どういうアクションで転がってくれるのか、そこは解明したいところです。

## 多様な取り組みを複合的にやり遂げる

ープロモーションのあり方についてもお話が出てきましたが、今後の仕掛けで重要なものをどうお考えでしょうか。

**中武** 結論から言えば、当社の場合は、すべての取り組みをきちんとやることを重視します。何か一つで急速にことが運ぶとは考えていません、ラジオのオンエアも大切です。エアモニタリングの数値が出ていましたが、トップ200の邦洋比率は55：45ほど。洋楽もかなり聴かれていることが分かります。それぞれのタイミングできちんとアプローチしていくことが重要ですね。

**井口** フェスなどは活用のタイミングが難しいですね。大物アーティストが単独志向になっている傾向があり、いいタイミングがあっても来てもらえないこともある。ツアービジネスの趨勢とのすり合わせに気を遣います。

ー洋楽のポテンシャルを考えて、それを引き出すような洋楽全体としての新たなムーブメント作りは必要でしょうか。

**住井** “洋楽ファン”は実はもういないと思います。「ヒップホップがすごく好き」「アメリカのロックを聴いて

ます」という人はいても洋楽という大きいくくりのファンという人はほとんどいない。僕らの会議でも洋楽ファンって誰ですか、という話が出ますが、とても漠然としている…。

**井口** 住井さんがおっしゃる通り、ジャンルとしての洋楽ファンはたぶん、少なくとも今は実体はないでしょうね。今の僕らは、音楽を売るチームであることを自負しており、音楽ファンを増やすことが洋楽マーケットに還元されると確信しています。ストリーミングを通じて音楽ファンは見えるし、そのパイを広げることにごたえを感じます。ストリーミングの積極的な活用をレコード会社とプラットフォーム企業と、一緒にやっていくことが明るい未来につながると思っています。

**中武** サブスクリプション、スマートフォンの普及で、洋楽が聴かれる機会ははるく増えています。「洋楽を聴きましょう」みたいな言葉を前面に出すことは、逆にハードルを自分たちで設けているようなものじゃないでしょうか。アーティストは個別にプロモーションすればいいし、聴く層は J-POP も洋楽も分け隔てなく聴くというスタイルになる。日本でも邦洋曲が入っているプレイリストで聴かれるようになれば、自然と洋楽も耳にするからプラスでしかない。僕も非常に明るくとらえています。

—邦楽オンリーだった当協会の若手社員も、プレイリストを入りにエド・シーランに入っていました。

## マーケットの実態を反映する指標を

—最後になりますが、今後の展望や課題をお聞かせください。

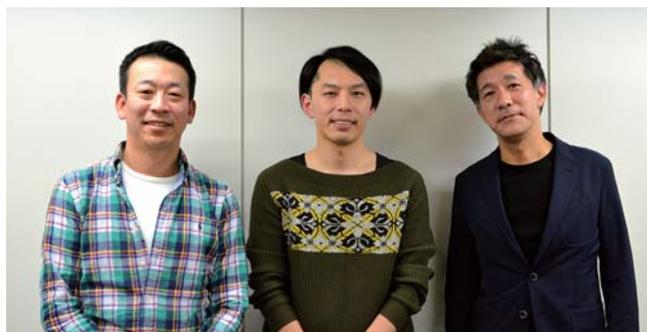
**中武** 今しっかりアプローチしたいのは中学生です。当社アーティストには、リトル・ミックス、フィフス・ハーモニー、ワン・ダイレクションほかポップス系のガールズ、ボーイズのグループがありますが、僕らが考えるよりもファン層はかなり若く、中学生ぐらいです。でもまだその層にリーチできていない。中学生は非常にオープンでジャンルの垣根もなく、いいものをいいと取り入れてくれるし、口コミからも伝わりやすい。どのように取り組むか試行錯誤しています。洋楽の未来は、小学校高学年から中学生、この層が握っていると思うので、今年はしっかりリーチしたいですね。

**井口** 音楽は、昨年のオースティン・マホーンのブレイクやラ・ラ・ランドなどにみられるように、映画など他のジャンルとの組み合わせがハマれば大ヒットにつながり、より広く世の中に伝わります。中武さんが先ほどおっしゃったように、洋楽・邦楽を分け隔てなく聴いてもらえるよう一度リセットして、世の中の反応を捉え、洋楽担当者が陥りがちな、コアな人がコアなビジネスをやらないように、洋楽アーティ

ストによる 360 度ビジネスを追求したいですね。

また整備されたチャート等の指標もほしいところです。僕らも一緒になって作らなければいけないのですが、業界全体でしっかりしたものを作るような枠組みがあると助かります。

**住井** 今の市場は上向きなので、将来を担う若い人たち、中学生、小学生にもそれを分かってもらえるようにしたい。洋楽が一部のマニアックな人たちのものじゃないことをアピールするためにも、今おっしゃったチャートの整備や認定方法の検討も重要だと思います。また、音楽ビジネス、洋楽ビジネス発展のために、次世代を担う優秀な人材に業界に入って来てもらいたいと願っています。



## 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭賞決定

平成29年度(第72回)文化庁芸術祭賞が決定した。

文化庁芸術祭は、広く一般に優れた芸術作品を鑑賞する機会を提供するとともに、芸術の創造と発展を図り、わが国芸術文化の向上と振興に資するため、文化庁が昭和21年より毎年実施しているものである。今回は関東・関西で行われた演劇41件、音楽42件、舞踊34件、大衆芸能57件の参加公演、および10月1日から11月30日の期間に放送されたテレビ・ドラマ18作品、テレビ・ドキュメンタリー41作品、ラジオ30作品ならびにレコード33作品が参加。高い独創性や企画性を基準として、部門ごとに審査を実施し、大賞、優秀賞、新人賞が贈られた。

ここではレコード部門で受賞した大賞1作品および優秀賞3作品を、審査委員会による受賞理由とともに紹介する。

なお、贈呈式は、2月14日に東京都新宿区のリーガロイヤルホテル東京において開催予定。

### 大賞



#### 「牙 尺八 山本邦山<音楽の軌跡>」

一般社団法人和傳社

2014年にこの世を去った山本邦山の膨大な録音をもとに、「伝統」「革新」「創造」「軽妙」「歷程」の5つの視点から幅広い活動の軌跡をたどる。傑出したテクニックと創造力で尺八の可能性を飛躍的に広げた彼の演奏は、今なお鮮烈な輝きを放っている。深い敬意とともにその音楽を知悉したプロデューサーだからこそ為し得た記念碑的作品として高く評価できる。

### 優秀賞

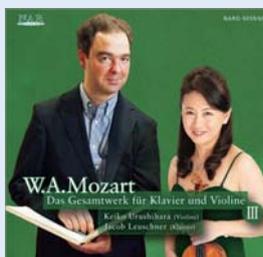


(c) アミュー/集英社

#### 「この音とまれ! 時瀬高等学校箏曲部」

キングレコード株式会社

高校の箏曲部を舞台とする漫画から生まれたもので、若手実力者たちの演奏で原作に登場する楽曲を収録。バーチャル世界と現実とが交錯する企画は興味深い。作中から新たな創作曲が生まれ、演奏映像のネット配信を通して現役高校生の部活動を刺激している。録音制作物の新たな価値の創出につながることに期待したい。



#### 「モーツァルト：ピアノとヴァイオリンのための作品全集」

有限会社日本アコースティックレコーズ

モーツァルトのピアノとヴァイオリンのためのソナタは、2つの楽器が対等に語り合い、協奏し、深みのある音楽世界を築いて行くという趣をもつ。漆原啓子の凛とした美しいヴァイオリン、それを豊かな表現力で支えるヤコブ・ロイシュナーのピアノは、このジャンルの価値を再確認させる見事な成果をこの6枚のディスクの中に示した。



#### 「高橋翠秋 胡弓の葉 月詠抄」

公益社団法人日本伝統文化振興財団

本CDは、本来が助奏楽器である胡弓の多様な表現力と魅力を、三曲と歌舞伎音楽から作品を選んで紹介した力作である。伝統的な作品に留まらず、尺八との二重奏や胡弓のみの三重奏といった新しい合奏の試みにも挑戦している。

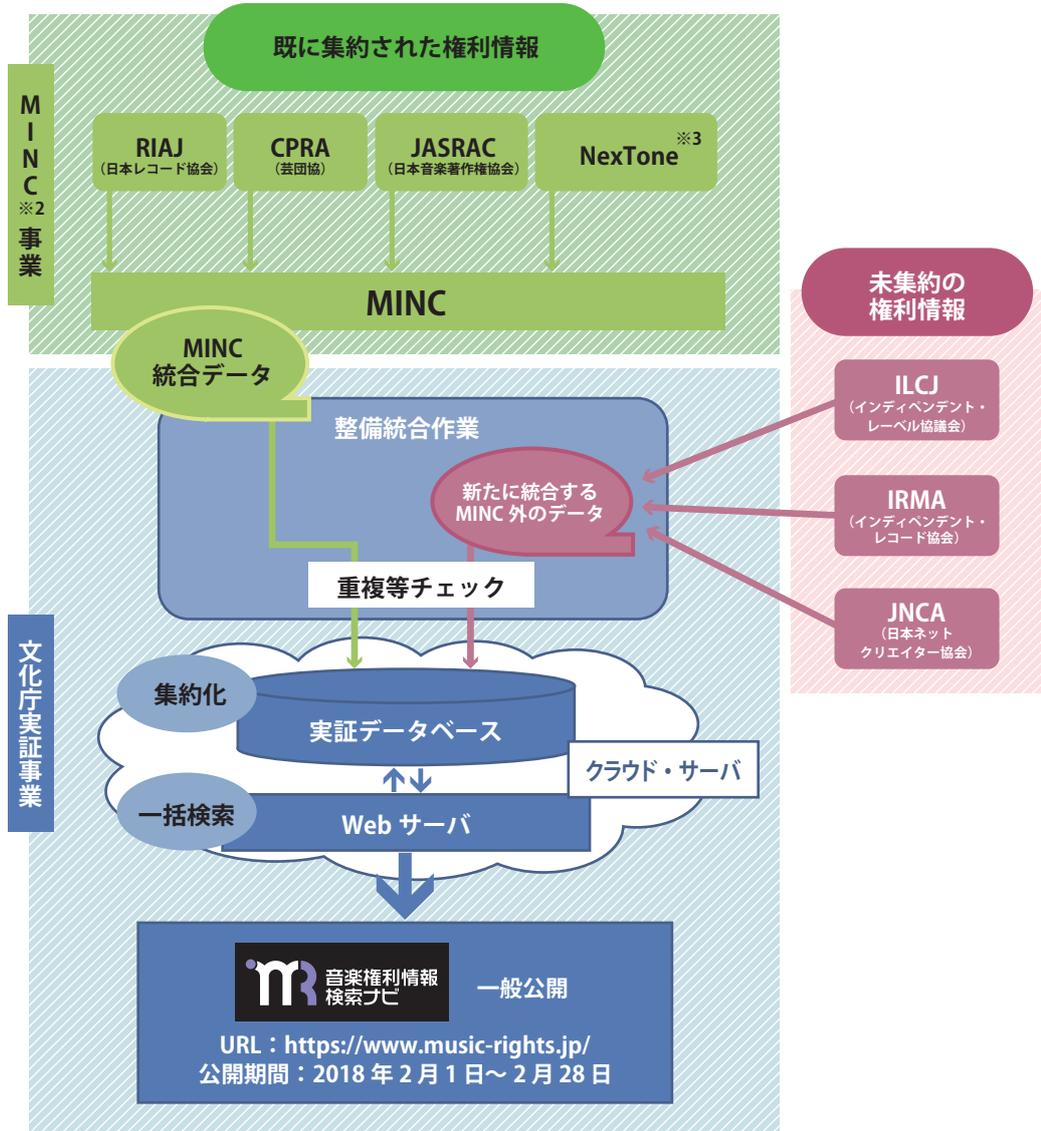
解説(英訳付き)は、最新の研究成果も反映し、学術的にも信頼のおける胡弓と胡弓音楽の紹介となっている。

# 文化庁実証事業「音楽権利情報検索ナビ」開設

当協会を含む音楽関係団体等で構成する権利情報集約化等協議会※1は、平成29年度文化庁「コンテンツの権利情報集約化等に向けた実証事業」の一環として、権利情報一括検索サイト「音楽権利情報検索ナビ」(https://www.music-rights.jp/)を2018年2月1日～2月28日の1カ月間開設する。

同サイトは、CDで発売されている音楽コンテンツについて同協議会に参加する各団体・事業者が保有するデータを統合し、基本データベースを構築。従来はデータベース化されていなかったインディーズ系レーベルやボカロPなどネット系クリエイターの録音物・音楽作品データも統合されるため、幅広い音楽権利情報のワンストップ検索が可能となる。

ユーザー登録を行えば誰もが利用可能であり、今回の実証実験では、幅広い利用者のニーズを把握し、使い勝手や今後の課題等を検証することを目的としている。



※1 権利情報集約化等協議会

【座長】末吉 互 (潮見坂総合法律事務所・弁護士)

【委員】(五十音順)

荒川 祐二 (株式会社 NexTone 代表取締役 COO)、伊澤 一雅 (一般社団法人日本音楽著作権協会 常任理事)、三田 あけみ (ミュージック・ジェイシス協議会 事務局)、椎名 和夫 (公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 実演家著作隣接権センター CPRA 運営委員)、長野 文夫 (特定非営利活動法人インディペンデント・レコード協会 理事長)、仁平 淳宏 (一般社団法人日本ネットクリエイター協会 理事)、畑 陽一郎 (一般社団法人日本レコード協会 理事・事務局長)、山下 智 (インディペンデント・レーベル協議会 理事・事務局長)、渡邊 博一 (株式会社ジャパンミュージックデータ 代表取締役社長)

※2 MINC (ミュージック・ジェイシス協議会)

デジタル時代における音楽著作物等に係る権利処理円滑化等のため、1999年にJASRAC、芸団協CPRAおよびRIAJの3団体で設立した協議会。各団体が提供する商品データ、作品データ、実演家データ等を集約・統合した「MUSIC FOREST (音楽の森)」サイトで公開中。2017年10月よりNexToneも加盟。

※3 NexToneデータの集約化はMINCで現在作業中。

## 2017年ミリオン認定作品

## CD

※日付は発売日

## アルバム

## 2ミリオン



**Finally**  
安室 奈美恵  
2017/11/08  
エイベックス・エンタテインメント

## シングル

## 2ミリオン



**願いごとの持ち腐れ**  
AKB48  
2017/05/31  
キングレコード

## ミリオン



**裸足で Summer**  
乃木坂46  
2016/07/27  
ソニー・ミュージックレーベルズ  
(ソニー・ミュージックレコーズ)



**シュートサイン**  
AKB48  
2017/03/15  
キングレコード



**インフルエンサー**  
乃木坂46  
2017/03/22  
ソニー・ミュージックレーベルズ  
(ソニー・ミュージックレコーズ)



**逃げ水**  
乃木坂46  
2017/08/09  
ソニー・ミュージックレーベルズ  
(ソニー・ミュージックレコーズ)



**#好きなんだ**  
AKB48  
2017/08/30  
キングレコード



**いつかできるから今日できる**  
乃木坂46  
2017/10/11  
ソニー・ミュージックレーベルズ  
(ソニー・ミュージックレコーズ)



**11月のアンクレット**  
AKB48  
2017/11/22  
キングレコード

## 有料音楽配信 (シングルトラック)

※日付は配信開始日

## 2ミリオン



**Story**  
AI  
2006/02/01  
ユニバーサル ミュージック

## ミリオン



**銀河鉄道 999**  
EXILE feat. VERBAL  
(m-flo)  
2008/02/27  
エイベックス・エンタテインメント



**MR.TAXI**  
少女時代  
2011/04/26  
ユニバーサル ミュージック



**R.Y.U.S.E.I.**  
三代目 J Soul Brothers  
from EXILE TRIBE  
2014/06/25  
エイベックス・エンタテインメント



**前前世 (movie ver.)**  
RADWIMPS  
2016/07/25  
ユニバーサル ミュージック



**恋**  
星野源  
2016/10/11  
JVCケンウッド・ピクチャーエンタテインメント

# 私の一枚

season2



## 吉田 眞市

一般社団法人日本レコード協会 理事  
(日本コロムビア株式会社 取締役副会長)

私は1968年(昭和43年)の生まれ。小学校から大学まで野球小僧だった私にとって、音楽を聴くことは貴重な気分転換の時間でした。練習や試合の行き帰り、練習後の自室、遠征先の宿舍など、時間があれば音楽に触れていた気がします。特に大学時代は野球部の寮生活でしたので、麻雀やお酒と並んでプライベートの楽しみの一つでした。

その多感な時期には、テレビやラジオで国民的な音楽番組も多く、私も例にもれず毎週欠かさず楽しんで視て聴いていました。「ザ・ベストテン」「ザ・トップテン」「夜のヒットスタジオ」「ベストヒットUSA」などなど。

演歌、歌謡曲から、ロック、ポップス、アイドル、そして洋楽まで、幅広い音楽に触れた時期でもありました。おかげで多ジャンルの音楽に興味を持ち、自分で買ったCD(レコード)が部屋中に溢れかえるようになっていました。

その中からの一枚。とても難しい。

今回挙げさせて頂くのは『宇宙戦艦ヤマト』 作詞 - 阿久悠さん、作曲・編曲 - 宮川泰さん、歌 - ささきいさおさん。

アニメ「宇宙戦艦ヤマト」は、1974年にテレビ初回放送されたSF作品ですが、その後の再放送でその評価が高まり、「銀河鉄道999」や「機動戦士ガンダム」、「ルパン三世」などと並んでアニメブームの火付け役となった、言わずと知れた名作の一つです。その後「超時空要塞マクロス」「新世紀エヴァンゲリオン」とアニメブームが続きます。

主題歌としてアニメ本編の世界観やストーリーをストレートに表現した詞やメロディは、ささきいさおさんの甘く太く伸びやかな歌声、アニメの主題歌として当時では(現在でも)珍しいフルオーケストラによる重厚な演奏、印象的なハイトーンのコラスなどによって、アニメ作品と相まって強く脳裏に焼き付くことになりました。唄い出しの「さらば～、地球よ～、旅立つ船は～、宇宙戦艦ヤマト～…」って本当にストレートですね。

当時小学生だった私は、TVアニメだけでは飽き足らず、劇場に足を運んだりレコードや書籍、プラモデルを買い込んで楽しんでいました。

現在でも、ささきいさおさんのイベントやコンサートでこの曲を聴くたびに当時の思い出が蘇ってきます。学校のこと、野球のこと、家族のこと、友人のこと、作品のみならず当時の記憶が鮮明に思い出されます。詳細は恥ずかしくて明かせませんが、当時から「やんちゃ」な少年だったなあと。そうした思い出とともに私の宝箱に入れておきたい一枚なのです。



©東北新社

## 宇宙戦艦ヤマト

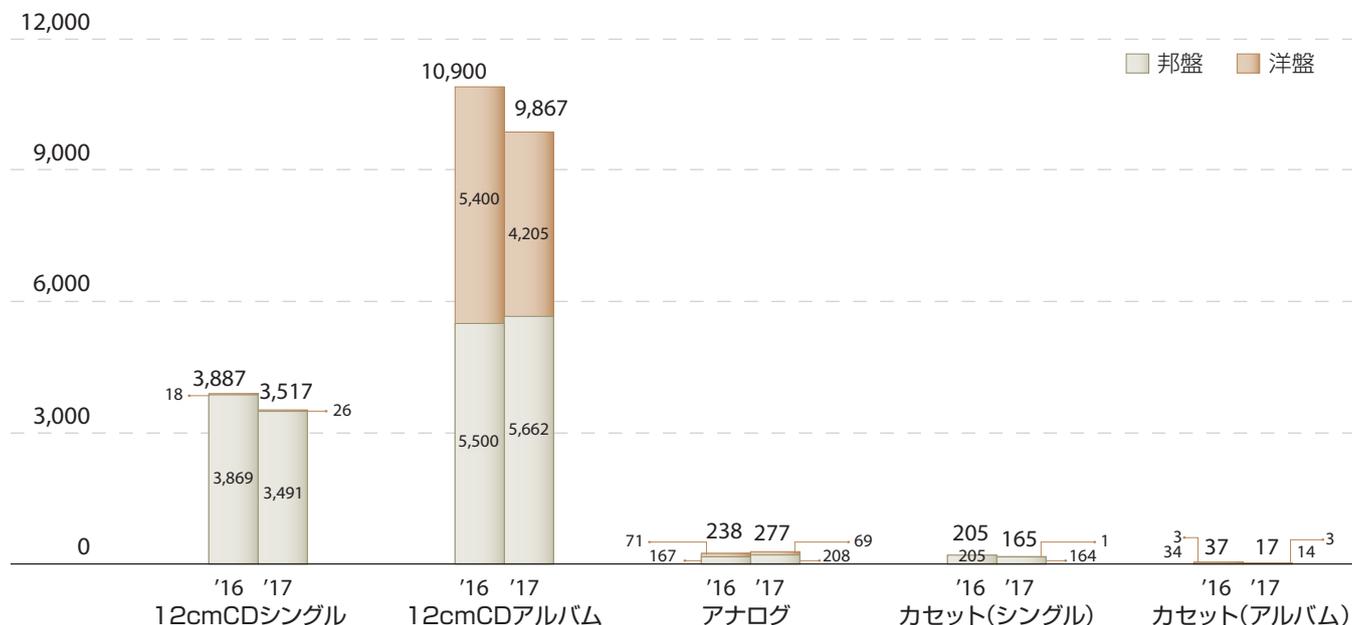
作詞：阿久悠、作曲・編曲：宮川泰、歌：ささきいさお、ロイヤル・ナイツ

## 2017年1月～12月新譜タイトル数

2017年(平成29年)の1月から12月に発売された新譜タイトル数がまとまった。オーディオレコードは前年比91%の13,843タイトル、音楽ビデオは前年比109%の1,727タイトルとなった。

### ● オーディオレコード新譜数

単位：タイトル



### ● オーディオレコードジャンル別新譜数

単位：タイトル

ジャンル		8cm CD	12cmCD シングル	12cmCD アルバム	CD 計	アナログ ディスク	カセット シングル	カセット アルバム	合計
邦盤	演歌	0	714	538	1,252	10	158	8	1,428
	ポップス・歌謡曲	0	2,272	3,762	6,034	195	4	6	6,239
	軽音楽	0	20	174	194	0	0	0	194
	サウンドトラック	0	2	347	349	0	0	0	349
	民謡・純邦楽	0	11	69	80	0	2	0	82
	教育・教材・童謡・童話	0	1	195	196	0	0	0	196
	アニメーション	0	453	331	784	2	0	0	786
	クラシック	0	5	135	140	1	0	0	141
	カラオケ	0	0	4	4	0	0	0	4
	その他	0	13	107	120	0	0	0	120
	邦盤計	0	3,491 (90%)	5,662 (103%)	9,153 (98%)	208 (125%)	164 (80%)	14 (41%)	9,539 (98%)
	洋盤	ロック・ポップス・ダンス	0	16	1,660	1,676	44	0	0
ジャズ・フュージョン		0	1	705	706	10	1	3	720
ポピュラーソング		0	7	381	388	14	0	0	402
サウンドトラック		0	1	191	192	1	0	0	193
クラシック		0	1	1,255	1,256	0	0	0	1,256
その他		0	0	13	13	0	0	0	13
洋盤計		0 (-)	26 (144%)	4,205 (78%)	4,231 (78%)	69 (97%)	1 (-)	3 (100%)	4,304 (78%)
合計	0 (0%)	3,517 (90%)	9,867 (91%)	13,384 (91%)	277 (116%)	165 (80%)	17 (46%)	13,843 (91%)	

( ) 内は対前年比

### ● 音楽ビデオジャンル別新譜数

単位：タイトル

ジャンル	ディスク		合計
	DVD	ブルーレイディスク	
邦楽	722	506	1,228
洋楽	228	125	353
カラオケ	146	0	146
小計	1,096 (109%)	631 (109%)	1,727 (109%)

( ) 内は対前年比

# Monthly Production Report

## 2017年12月度レコード生産実績

12月度の音楽ソフト（オーディオレコード・音楽ビデオの合計）の生産実績は、数量で前年同月比86%の1,869万枚・巻、金額で同86%の241億円となった。

内訳は、オーディオレコードが、数量で前年同月比85%の1,313万枚・巻、金額で同95%の162億円。音楽ビデオが、数量で前年同月比90%の556万枚・巻、金額で同72%の79億円となっている。

### ● オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

		12月実績						2017年1月～2017年12月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
8cmCD シングル	邦	7	0	176%	5	0	164%	39	0	50%	26	0	49%
	洋	0	0	-	0	0	-	3	0	200%	1	0	211%
	計	7	0	176%	5	0	164%	42	0	53%	27	0	51%
12cmCD シングル	邦	4,208	32	101%	3,679	23	107%	50,164	32	92%	40,711	23	95%
	洋	13	0	1304%	15	0	2191%	297	0	230%	259	0	476%
	計	4,221	32	102%	3,693	23	107%	50,461	33	93%	40,970	24	96%
シングル 計	邦	4,215	32	102%	3,684	23	107%	50,202	33	92%	40,736	23	95%
	洋	13	0	1304%	15	0	2191%	300	0	229%	260	0	473%
	計	4,228	32	102%	3,698	23	107%	50,502	33	93%	40,996	24	96%
12cmCD アルバム	邦	7,124	54	72%	10,658	66	88%	84,489	55	100%	112,298	65	99%
	洋	1,533	12	127%	1,412	9	122%	17,303	11	86%	17,359	10	92%
	計	8,658	66	78%	12,070	75	91%	101,791	66	97%	129,657	75	98%
CD 計	邦	11,340	86	80%	14,341	89	92%	134,691	87	97%	153,034	88	98%
	洋	1,546	12	128%	1,427	9	124%	17,603	11	87%	17,619	10	93%
	計	12,886	98	84%	15,768	98	95%	152,294	99	96%	170,653	98	98%
アナログ ディスク	邦	69	1	145%	120	1	125%	537	0	136%	991	1	131%
	洋	62	0	136%	116	1	115%	526	0	131%	925	1	132%
	計	131	1	141%	236	1	120%	1,063	1	133%	1,916	1	132%
カセット テープ	邦	47	0	102%	39	0	99%	565	0	81%	475	0	78%
	洋	0	0	67%	0	0	55%	6	0	223%	6	0	180%
	計	47	0	102%	39	0	99%	571	0	82%	482	0	78%
その他	邦	22	0	47%	22	0	76%	145	0	60%	206	0	67%
	洋	43	0	263%	86	1	236%	298	0	132%	597	0	131%
	計	64	0	104%	108	1	166%	443	0	95%	803	0	105%
合計	邦	11,477	87	81%	14,522	90	93%	135,938	88	97%	154,706	89	98%
	洋	1,651	13	130%	1,630	10	126%	18,433	12	88%	19,148	11	95%
	計	13,128	100	85%	16,152	100	95%	154,371	100	96%	173,853	100	98%

### ● 音楽ビデオ

		12月実績						2017年1月～2017年12月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD	邦	4,126	74	97%	4,510	57	73%	38,696	80	94%	35,390	61	83%
	洋	50	1	129%	34	0	77%	704	1	100%	1,003	2	103%
	計	4,176	75	98%	4,544	57	73%	39,400	82	94%	36,393	63	84%
ブルーレイ ディスク	邦	1,376	25	72%	3,354	42	69%	8,473	18	88%	21,166	36	89%
	洋	12	0	160%	18	0	71%	204	0	102%	634	1	93%
	計	1,387	25	72%	3,372	43	69%	8,677	18	88%	21,800	37	89%
テープ・その他	邦	0	0	-	0	0	-	1	0	89%	2	0	85%
	洋	0	0	-	0	0	-	0	0	0%	0	0	0%
	計	0	0	-	0	0	-	1	0	89%	2	0	85%
合計	邦	5,501	99	90%	7,864	99	72%	47,170	98	93%	56,558	97	85%
	洋	62	1	134%	53	1	75%	908	2	101%	1,637	3	99%
	計	5,563	100	90%	7,917	100	72%	48,078	100	93%	58,195	100	86%

### ● 音楽ソフト（オーディオ/音楽ビデオ合計）

		12月実績						2017年1月～2017年12月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオレコード計		13,128	70	85%	16,152	67	95%	154,371	76	96%	173,853	75	98%
音楽ビデオ計		5,563	30	90%	7,917	33	72%	48,078	24	93%	58,195	25	86%
合計	邦	16,978	91	83%	22,387	93	84%	183,108	90	96%	211,264	91	94%
	洋	1,713	9	130%	1,682	7	123%	19,341	10	89%	20,784	9	96%
	計	18,692	100	86%	24,069	100	86%	202,449	100	95%	232,048	100	94%

### ● ビデオレコード（含音楽ビデオ）

		12月実績						2017年1月～2017年12月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD		7,565	75	82%	8,822	56	76%	77,772	76	90%	81,873	54	86%
ブルーレイディスク		2,560	25	62%	7,015	44	64%	25,128	24	94%	69,822	46	97%
テープ・その他		0	0	111%	0	0	100%	1	0	79%	2	0	68%
合計		10,125	100	76%	15,837	100	71%	102,901	100	91%	151,697	100	91%

### ● オーディオ/ビデオレコード合計

		12月実績						2017年1月～2017年12月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオレコード計		13,128	56	85%	16,152	50	95%	154,371	60	96%	173,853	53	98%
ビデオレコード計		10,125	44	76%	15,837	50	71%	102,901	40	91%	151,697	47	91%
合計		23,253	100	80%	31,989	100	81%	257,272	100	94%	325,551	100	94%

備考 1. 本年実績は、会員会社の集計である。当会員社が受託した非会員社からの販売委託分を含む。  
 2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。  
 3. オーディオレコードのその他は SACD、DVD オーディオ、DVD ミュージック、MD の合計。  
 4. 音楽ビデオ、およびビデオレコードのその他は LD、HD DVD の合計。

音楽ソフト

シングル

邦楽

ミリオン	11月のアンクレット	AKB48	2017.11.22	キングレコード
ダブル・プラチナ	MIC Drop/DNA/Crystal Snow	BTS (防弾少年団)	2017.12.06	ユニバーサル ミュージック
プラチナ	ワロタビーボー	NMB48	2017.12.27	よしもとミュージックエンタテインメント (laugh out loud! records)
	世界はどこまで青空なのか?	NGT48	2017.12.06	ソニー・ミュージックレーベルズ (アリオラジャパン)
	White Love	Hey! Say! JUMP	2017.12.20	ジェイ・ストーム
ゴールド	J.S.B. HAPPINESS	三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBE	2017.12.13	エイベックス・エンタテインメント
	Awaken the power	Saint Aqours Snow	2017.12.20	ランティス
	Reboot	東方神起	2017.12.20	エイベックス・エンタテインメント
	JUICE UP!!	WANIMA	2016.08.03	ビザ・オブ・デス・レコーズ

アルバム

邦楽

2ミリオン	Finally	安室 奈美恵	2017.11.08	エイベックス・エンタテインメント
プラチナ	ROENTGEN	HYDE	2002.03.27	ソニー・ミュージックレーベルズ (キューンミュージック)
ゴールド	092	HKT48	2017.12.27	ユニバーサル ミュージック
	舞祭組の、わっ!	舞祭組	2017.12.13	エイベックス・エンタテインメント
	軌跡 BEST COLLECTION +	和楽器バンド	2017.11.29	エイベックス・エンタテインメント

ビデオ

邦楽

プラチナ	三代目 J Soul Brothers LIVE TOUR 2016-2017 "METROPOLIZ"	三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBE	2017.12.13	エイベックス・エンタテインメント
ゴールド	Mr.Children、ヒカリノアトリエで虹の絵を描く	Mr.Children	2017.12.20	トイズファクトリー

※日付は発売日

有料音楽配信

シングルトラック

邦楽

ダブル・プラチナ	Fight Together	安室 奈美恵	2011.07.13	エイベックス・エンタテインメント
プラチナ	MELROSE ~愛さない約束~	EXILE ATSUSHI	2012.12.05	エイベックス・エンタテインメント
	STAY TUNE	Suchmos	2016.01.13	スペースシャワーネットワーク
	if...	DA PUMP	2009.07.15	エイベックス・エンタテインメント
	魔法って言うていいかな?	平井 堅	2016.06.03	ソニー・ミュージックレーベルズ (アリオラジャパン)
	ノンフィクション	平井 堅	2017.05.14	ソニー・ミュージックレーベルズ (アリオラジャパン)
	DIAMONDS (ダイヤモンド)	プリンセス プリンセス	2006.02.15	ソニー・ミュージックレーベルズ (SME レコーズ)
	アイネクライネ	米津 玄師	2014.04.09	ユニバーサル ミュージック
	ピースサイン	米津 玄師	2017.06.21	ソニー・ミュージックレーベルズ (ソニー・ミュージックレコーズ)
ゴールド	あなた	宇多田 ヒカル	2017.12.08	ソニー・ミュージックレーベルズ (EPIC レコードジャパン)
	風に吹かれても	欅坂46	2017.10.25	ソニー・ミュージックレーベルズ (ソニー・ミュージックレコーズ)
	Fantastic future	田村 ゆかり	2013.04.17	キングレコード
	君の名は希望	乃木坂46	2013.03.06	ソニー・ミュージックレーベルズ (ソニー・ミュージックレコーズ)
	語り継ぐこと	元 ちとせ	2005.04.01	ソニー・ミュージックレーベルズ (EPIC レコードジャパン)
	僕の心をつくってよ	平井 堅	2017.02.24	ソニー・ミュージックレーベルズ (アリオラジャパン)
	SWEET MEMORIES	松田 聖子	2006.01.25	ソニー・ミュージックダイレクト

洋楽

プラチナ	シェイプ・オブ・ユー	エド・シーラン	2017.01.06	ワーナーミュージック・ジャパン
	ベイフォン feat. ウィズ・カリファ	マルーン 5	2012.06.06	ユニバーサル ミュージック

※日付は配信開始日

認定基準一覧 音楽ソフト (アルバム・シングル・音楽ビデオ)、音楽配信 (着うた@、シングルトラック・アルバム) 共通

名称	ゴールド	プラチナ	ダブル・プラチナ	トリプル・プラチナ	ミリオン	2ミリオン
基準	10万以上	25万以上	50万以上	75万以上	100万以上	200万以上

基準単位: 音楽ソフト・枚、配信・DL (ダウンロード数)  
 ※着うた@のみダブル・プラチナ以上を顕彰  
 ※※「着うた@」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です  
 ※※※3ミリオン以降、100万毎に認定

## 協会からのお知らせ

音楽ナタリーと日本レコード協会の連携企画「Coming Next Artists」  
掲載アーティストの第2弾プレイリストを国内主要サブスクリプションサービスで公開開始！

昨年10月に続き、「Coming Next Artists」特集ページ掲載アーティストの楽曲を集めたプレイリスト第2弾が国内の主要サブスクリプションサービスで公開となりました。会員レコード会社イチ押しのアーティストによる楽曲をお楽しみください。

### 【公開されるサービス】

Apple Music、AWA、dヒッツ／レコチョク Best、Google Play Music、KKBOX / auうたパス、LINE MUSIC、Spotify

### 【掲載アーティスト】

BRADIO、須澤紀信、ORESAMA、イトヲカシ、FlowBack、Cellchrome、THE PINBALLS、山崎彩音

- ※ 各サービスで今回公開されるプレイリストは上記各アーティストの楽曲（2～3曲）を集めたプレイリストで、サービスによっては配信の無いアーティストや内容が異なる場合があります。
- ※ 記載されている会社名、サービス名は、各社および各団体の商標もしくは登録商標です。



音楽ナタリー「Coming Next Artists」特集ページ  
(URL) <https://natalie.mu/music/pp/comingnextartists>



エルマーキャラクター  
エルマーくん

THE RECORD No.699 2018年2月号  
一般社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 重村 博文  
編集人 原 康晴  
発行日 2018年2月13日  
発行 一般社団法人 日本レコード協会  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-2-5 共同通信会館9F  
TEL. 03-5575-1301 (代) FAX. 03-5575-1313  
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフビーアイ・コミュニケーションズ

## 編集後記

今月号の特集では、海外3大メジャー洋楽部門長の皆さまによる鼎談をお届けしました。個人的な話ではありますが、私の洋楽体験としては、中学生時代の音楽の授業が強く印象に残っています。私が通った学校の音楽専科の先生はほとんど教科書を使用せず、当時の最新Jポップをはじめ、先生の趣味を交えたさまざまな音楽の鑑賞に時間を割いていました。特に、「Top of the World」、「Take Me Home, Country Roads」、「Tout, tout pour ma chérie」、「We Are The World」は毎回授業で聴き、歌唱しました。今思えば、先生が私たち学生に知っておいてほしいとの思いから考え選曲したのかもしれませんが、歌詞の穴埋めが期末試験に出題されるとあって、登下校時までMDで聴き続け、そらで歌えるようになった記憶があります。その頃に聴いた楽曲は今でも身体に染み込んでおり、時折聴き返してしまいます。(M)

■当機関誌へのご意見・ご感想がございましたら、当協会公式サイト (URL: <http://www.riaj.or.jp/>) のお問い合わせページよりお寄せください。